

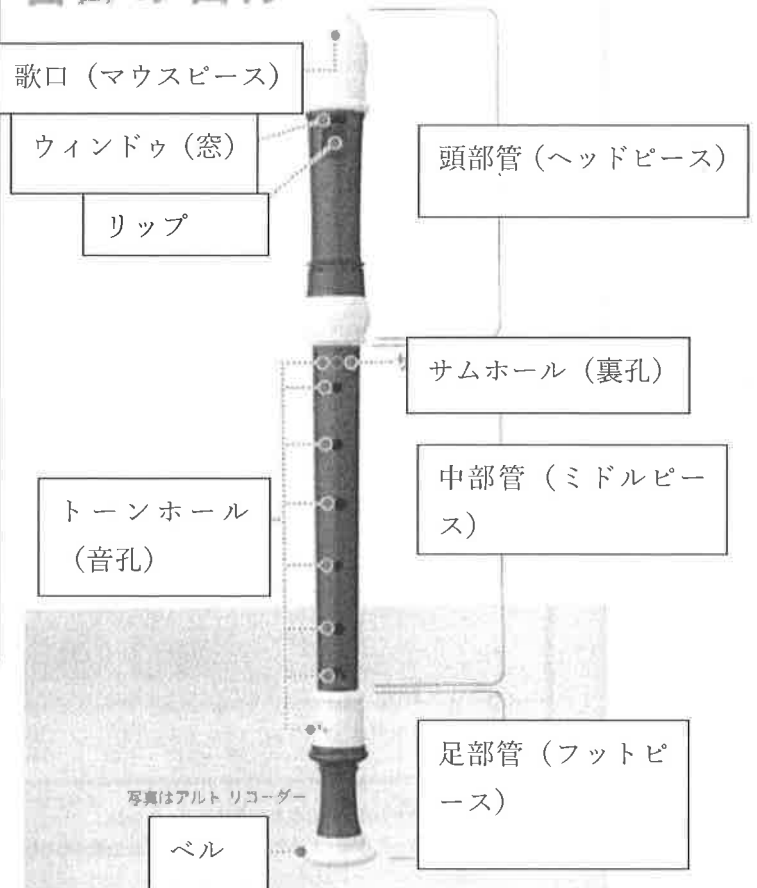
## 楽器を知ろう

○ リコーダーは、(ヨーロッパ) 各地で古くから演奏されてきました。16世紀頃かには、独奏や合奏、(歌)や踊りの(伴奏)などで盛んに用いられるようになりました。

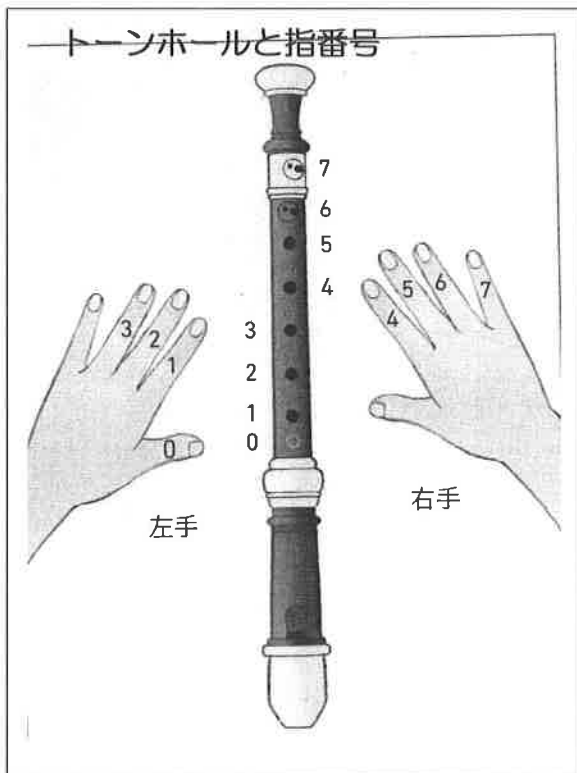
○17世紀半ばに、現在のような(ジョイント)(継ぎ目)のある形に改良され、(ピッチ)(音の高さ)の調整が可能となり、音域も広がりました。

○18世紀頃には、ヴァイオリンなどと並ぶ重要な独奏楽器となり(ヴィヴァルディ)や(バッハ)などの作曲家がリコーダーの活躍する作品を残しました。

## 各部の名称



## アルトリコーダーワークシート②



## チューニング

○ピッチを合わせることを「チューニング」といいます。基準とする音(アルトリコーダーの場合はミの音など)を鍵盤楽器などで鳴らし、それに(ピッチ)を合わせます。

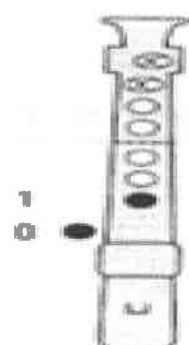
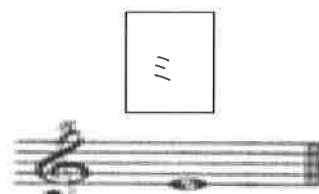
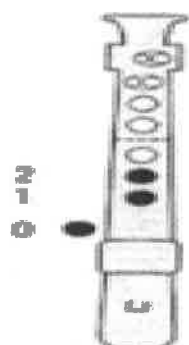
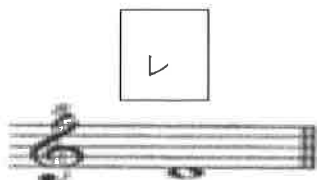
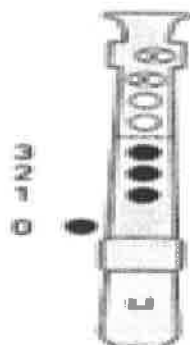
このとき、息の強さを(一定)に保ようにしましょう。ピッチの調整は、(頭部管)を抜いたり差し込んだりして管の(長さ)を変えることによって行います。

○なお、リコーダーは楽器が(温まる)とピッチが高くなるため、あらかじめ(手)や(息)で楽器を温めておく必要があります。

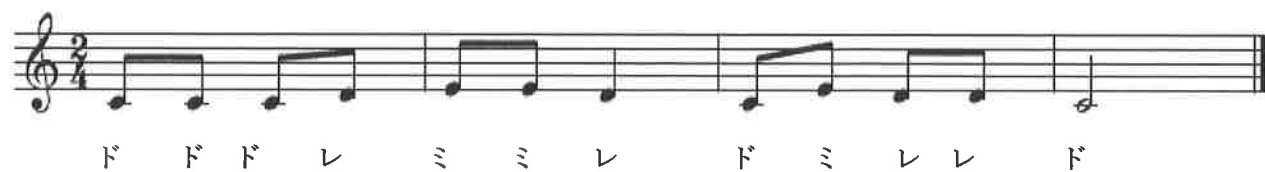
息で温める場合には、ウィンドウの部分を手のひらでおおって、静かに息を吹き入れます。

吹いてみよう（今日は ド、レ、ミを吹いてみよう。）

# 運指



挑戦してみよう

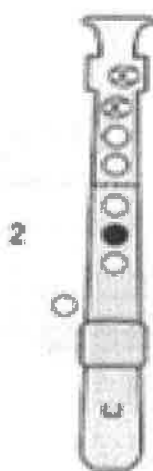
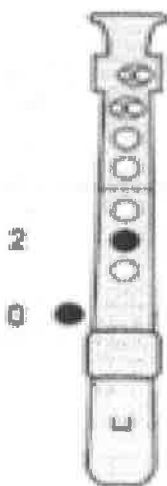


吹いてみよう（今日は ド、レ、ミを吹いてみよう。）

ファ



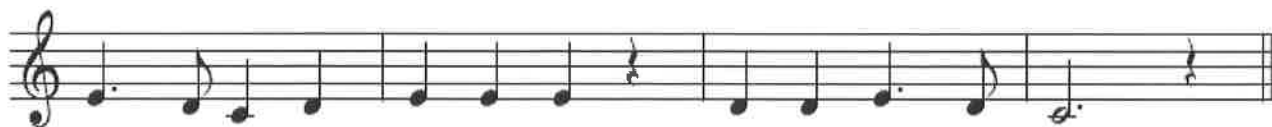
ソ



メリーさんのひつじ



ミ レ ド レ ミ ミ ミ レ レ レ ミ ソ ソ



ミ レ ド レ ミ ミ ミ レ レ ミーレ ド

喜びの歌 作曲：ベートーヴェン



ド ド ド レ ミ ミ レ ド ミ レ レ ド



ド ド ド レ ミ ミ レ ド ミ レ レ ド

|          |                           |       |      |
|----------|---------------------------|-------|------|
| 曲名       | 「和声と創意の試み」第1集「四季」から「春」1楽章 |       |      |
| 作曲者      | ヴィヴァルディ                   | 生まれた国 | イタリア |
| 演奏形態     | 弦楽合奏                      |       |      |
| 1回目聴いた感想 |                           |       |      |

○ 音楽を分けてきいていきます。次のA～Eの曲の特徴を聴き、感じたこと書いて、当てはまるソネット（14行からなる詩）を選んで下の表に入れていきましょう。

|   | 楽 譜                                                                                 | 曲の特徴（音色、強弱、速さなど また感じたこと） | 選んだソネット |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|---------|
| A |    |                          | 2       |
| B |    |                          | 4       |
| C |   |                          | 1       |
| D |  |                          | 5       |
| E |  |                          | 3       |

- ① 泉はそよ風に誘われて、ささやき流れていく。
- ② 春がやって来た。
- ③ 嵐がやむと、小鳥はまた歌い始める。
- ④ 小鳥は楽しい歌で、春を歓迎する。
- ⑤ 黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる。

上のような、部分的に文章（13世紀頃イタリアでは（14）行からなる詩）をつけて音楽の曲想をしめしたものを（ソネット）と言います。

## 楽曲について

「四季」は、(①独奏ヴァイオリン)、(② 弦楽合奏)、(③ 通奏低音)のための協奏曲です。全部で春・夏・秋・冬の(④ 4曲)からなり、それぞれの季節の(⑤ ソネット)が添えられています。「春」はその第1曲で、(⑥ 3つ)の楽章にまとめられています。ここで、聞く「春」の第1楽章は、(⑦ 合奏)と(⑧ 独奏)が交互に示されます。またAの□と同じような旋律がB以降でも各部分の間や最後に合奏で現れます。このような構成を(⑨リトルネッロ形式)といいます。(⑩ヴィヴァルディ)の時代には、このような形式の作品が数多くつくられました。

### リトルネッロ形式（「春」の演奏楽器）



#### A. ヴィヴァルディ (1678～1741) (① 63歳で亡くなる。)

ヴィヴァルディは、イタリアの(② ヴェネツィア)に生まれました。ヴァイオリン奏者の(③ 父親)から音楽の手ほどきを受け、のちに(④ ピエタ養育院)で音楽を教えました。その生徒たちによる演奏会は、(④ ヨーロッパ中)からおおぜいの旅行客が訪れるほど人気があり、その演奏会のためにヴィヴァルディは膨大な数の(⑤ 協奏曲)を作曲することになったのです。それらの協奏曲は、(⑥ バッハ)や(⑦ ヘンデル)など同時代の作曲家たちに大きな影響を与えました。



#### ◎使用されている楽器について

